

令和3年度

名古屋大学情報学部

第3年次編入学
学生募集要項

名古屋大学情報学部

目次

募集要項

アドミッションポリシー	1
Ⅰ. 募集人員	1
Ⅱ. 出願資格	2
Ⅲ. 出願手続	2
Ⅳ. 選抜方法	5
Ⅴ. 合格者発表	6
Ⅵ. 入学手続き	6
Ⅶ. 授業料等学生納付金	6
Ⅷ. 受験者心得	6
Ⅸ. その他	7
名古屋大学情報学部第3年次編入学に関する注意事項	9
名古屋大学情報学部概要	10

自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では、自然災害等による被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、本入試の検定料の免除を実施いたします。

詳細については、本学ホームページを確認してください。

○本学ホームページ

URL <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

入学案内→学部入試の概要→学部入試に関するお知らせ

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

- ◇ 情報学部ホームページ
URL <https://www.inagoya-u.ac.jp>
- ◇ 連絡窓口
情報学部 教務学生係
TEL 052-789-4823

令和3年度名古屋大学情報学部 第3年次編入学学生募集要項

アドミッションポリシー

情報学部は、情報学の各分野の研究者になりうる人材のみならず、情報学を駆使して、新しい価値の創出、課題の発見と解決、情報社会の基盤的仕組みの構想・設計等ができる人材、あるいは、企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材、情報学に通じた科学諸分野の研究者になりうる人材を養成することを目標としています。そのため、このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った多様な学生を、幅広く対象として入学者選抜を実施します。

ア 幅広い情報学の知識とスキルを身につけるために必要な、十分な基礎的学力を有していること。

(学部共通)

イ 情報の観点から世界を理解し、情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有すること。

(主に自然情報学科)

ウ 社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち、情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有すること。(主に人間・社会情報学科)

エ 社会と調和し、社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有すること。

(主にコンピュータ科学科)

そこで、第3年次編入学の学生として、情報学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに優れ、特に情報を活用して人類の課題に挑む意欲のある者を以下の選抜方法により、募集します。

I. 募集人員

募集年次	学 科 名	募集人員
3年次	自然情報学科	4名
	人間・社会情報学科	4名
	コンピュータ科学科	2名

Ⅱ. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者。(本学在学者は除く。)

- 1 大学に2年以上(休学期間を除く。)在学し(令和3年3月31日までに2年以上在学となる者を含む。), 62単位以上を修得した者及び令和3年3月31日までに修得する見込みの者
- 2 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和3年3月31日までに授与される見込みの者
- 3 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び令和3年3月31日までに卒業する見込みの者
- 4 学校教育法第132条の規定により専修学校の専門課程を修了した者及び令和3年3月31日までに修了見込みの者
- 5 学校教育法第58条の2の規定により高等学校の専攻科の課程を修了した者及び令和3年3月31日までに修了見込みの者
- 6 学校教育法施行規則附則第7条の規定により大学の第3年次に編入学することができる者
- 7 外国の短期大学を卒業した者及び令和3年3月31日までに卒業見込みの者
- 8 外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者及び令和3年3月31日までに修了見込みの者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)
- 9 外国において, 学校教育における14年以上の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を修了した者及び令和3年3月31日までに修了見込みの者

(注) 7, 8, 9により出願しようとする者は, 出願資格を事前に確認しますので, 令和2年7月8日(水)までに情報学部教務学生係に必ず問い合わせてください。

Ⅲ. 出願手続

入学志願者は, 次の手続により出願してください。

1 出願期間

令和2年7月15日(水)～同年7月21日(火) 16時必着

2 出願方法

「3 出願に要する書類等」を一括して本学部所定の封筒に入れ, **書留郵便**で下記送付先に郵送してください。持参による提出は認められません。

<送付先> 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-1 (780)
名古屋大学情報学部教務学生係

3 出願に要する書類等

	出願書類等	注意事項
①	志願票, 受験票, 写真票	本学部所定のもの 志願票と写真票には写真(縦4cm×横3cm, 正面向き, 上半身, 脱帽で, 出願前3ヶ月以内に撮影したもの)を貼付してください。
②	志願理由書	本学部所定のもの
③	出願資格を証明する書類	最終学校又は在学中の学校の以下の書類 ・卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 ・大学在学中の者は, 在学証明書(休学期間を除き2年以上在学又は在学見込である旨の記載があるもの) ・中途退学の者は, 在籍期間証明書(休学期間を除き2年以上在学していた旨の記載があるもの)
④	成績証明書	最終学校又は在学中の学校のもの 中途退学の者は, それまでの成績証明書
⑤	検定料 30,000円 (払込後の振替払込受付証明書)	本学部所定の「検定料払込書」に必要事項を記入して, 郵便局の窓口で現金30,000円を添えて払い込んでください。 払い込んだ後, 領収印を受けた「C. 振替払込受付証明書(検定料払込証明書)」を志願票の貼付欄に貼付してください。 【注意】 1. 「A. 払込取扱票」のご依頼人欄の氏名は, 必ず志願者本人の氏名にしてください。 2. ATMからの払込みはできません。 3. 払込手数料は, 志願者本人の負担となります。 4. 「B. 振替払込請求書兼受領証」は, 本人の控えとして保管してください。 5. 出願書類を受理した後はいかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しません。ただし, 以下の場合には納入済みの検定料を返還しますので, 8月17日(月)までに情報学部教務学生係に照会してください。 (1) 検定料納入後, 出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合 (2) 検定料を二重に払い込んだ場合
⑥	受験票送付用封筒	本学部所定のもの 郵便番号, 受信場所, 氏名を記入し, 374円分の切手を貼付してください。
⑦	返信用封筒2枚	本学部所定のもの 郵便番号, 受信場所, 氏名を記入してください。切手は不要です。

4 受験票の送付

出願が受理された後, 受験票を令和2年7月29日(水)以降に各人に発送します。

5 障害のある者等の出願

障害のある者等で、受験上特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、以下によりあらかじめ本学部と相談してください。

また、入学後の修学に関して相談の希望がある者は、お問い合わせください。

① 相談の時期

令和2年7月8日（水）まで

② 相談の方法

○申請書（志望学科、障害等の状況、受験上の配慮を希望する事項等を記載したもので、本人の連絡先を記載したもの。様式は任意・用紙はA4サイズ）

○障害等に関する医師の診断書

○出身学校関係者等の添書（学校における修学状況及び学習上の配慮状況等を記載したもの）

以上3点の書類を提出してください。なお、必要な場合には、本学部において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接を行います。

③ 連絡先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-1（780）

名古屋大学情報学部教務学生係

電話 052-789-4823

6 その他

(1) 出願資格等に関する照会文書は、令和2年7月8日（水）までに届くよう、照会者本人の郵便番号、受信場所、連絡先及び氏名をA4サイズの用紙に記入し、84円切手を貼った返信用封筒を同封の上、下記あて行ってください。

照会先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-1（780）

名古屋大学情報学部教務学生係

(2) 必要に応じて出願書類について説明を求め、又は、さらに書類・証明書等の提出を求めることがあります。

(3) 提出された書類等に不備がある場合には、受理しません。

(4) いったん受理した出願書類は、いかなる理由があっても返却しません。また、受理後の出願書類の変更は認めません。

(5) 志願票はじめ出願書類等に虚偽の記載をした場合は、入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

IV. 選抜方法

入学者選抜は、提出された出願書類、第1次選考（筆記試験）、第2次選考（面接）により行います。

(1) 第1次選考（筆記試験）

筆記試験は次のとおりとします。

期日：令和2年8月20日（木）

場所：情報学部講義室（当日掲示）

自然情報学科

教 科	時 間	備 考
小 論 文	9：30～10：30	出題される課題についての論述
数 学	11：00～12：00	高等学校程度の数学及び基礎的な微分積分，線形代数の範囲で出題

※全ての受験者に対して，第2次選考（面接）を実施します。

人間・社会情報学科

教 科	時 間	備 考
小 論 文	9：30～10：30	出題される課題についての論述

※全ての受験者に対して，第2次選考（面接）を実施します。

コンピュータ科学科

教 科	時 間	備 考
コンピュータ科学基礎	9：30～10：30	情報理論，論理設計，プログラミング，アルゴリズムに関する分野から出題
数 学	11：00～12：00	高等学校程度の数学及び基礎的な微分積分，線形代数の範囲で出題

※全ての受験者に対して，第2次選考（面接）を実施します。

(2) 第2次選考（面接）

自然情報学科，人間・社会情報学科及びコンピュータ科学科

期日：令和2年8月21日（金）

場所：情報学部講義室（当日掲示）

全ての受験者に対し，次のとおり第2次選考（面接）を行います。

なお，英語に関する試問を行う可能性があります。

選考方法	時 間	備 考
面 接	10：00～	1人10分程度

V. 合格者発表

令和2年8月31日（月）午後5時頃、情報学部玄関（全学教育棟本館北棟）に掲示発表するとともに、郵送により各人あてに通知します。

なお、掲示発表後、本学部ホームページにおいても発表します。ただし、これは受験生の便宜を図るための速報ですので、郵送される可否結果通知書により必ず確認をしてください。

VI. 入学手続き

令和3年3月下旬に行います。詳細については合格発表後、郵送により合格者あてに通知します。

VII. 授業料等学生納付金

入 学 料 282,000 円

授 業 料 前期分 267,900 円

（年額 535,800 円）

【注】入学時又は在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料額及び授業料額が適用されます。

VIII. 受験者心得

1 第1次選考（筆記試験）

- (1) 試験当日は、9時00分までに情報学部玄関（全学教育棟本館北棟）で、受験に関する注意事項の掲示を確認し、9時20分までに試験室に入室してください。
- (2) 試験室には、必ず情報学部発行の受験票を携帯し、係員の指示に従って机上の所定の場所に置いてください。
- (3) 試験では、黒鉛筆（シャープペンシルも可）、消しゴム、鉛筆削り（電動式を除く）、時計（計時機能だけのもの）、眼鏡以外の用具は机上に置くことはできません。ただし、コンピュータ科学基礎、数学の試験では定規（分度器付き定規は除く）・コンパスを持ち込み使用しても差し支えありません。
- (4) 試験室では携帯電話や音の出る機器等は、アラーム設定を解除した上で電源を切ってください。また、これらを身につけることは認めないので、かばん等に入れてください。

2 第2次選考（面接）

- (1) 試験当日は、所定の時間までに情報学部玄関（全学教育棟本館北棟）で掲示を確認し、控室に入室してください。

- (2) 面接の順番、実施方法等は当日控室で監督者が説明します。
- (3) 控室には、必ず情報学部発行の受験票を携帯してください。
- (4) 館内では、試験が終了し館外へ退出するまで携帯電話の使用を禁止します。アラーム設定を解除した上で電源を切り、かばん等に入れてください。
- (5) 控室で面接の順番を待つ間は静粛にしてください。また、読書等をして構いません。ただし、電子機器・通信機器等の使用は禁止します。

3 その他

- (1) 志願者に対する通知は、すべて志願票に書かれた連絡先に対して行います。
- (2) 受験の際の宿泊施設等の斡旋はしません。

Ⅸ. その他

(1) 個人情報の取扱い

住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理にのみ利用します。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しません。

(2) 不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

情報学部ホームページ URL https://www.i.nagoya-u.ac.jp

令和2年6月

【問合せ先】

名古屋大学 情報学部 教務学生係
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 (052) 789-4823
FAX (052) 789-4800

名古屋大学情報学部第3年次編入学に関する注意事項

1. 編入学年次

編入学生の編入学年次は、3年次とします。

2. 卒業の要件

編入学生は、2年以上在学し、卒業研究を含む所定の単位を修得しなければなりません。卒業研究の単位は、卒業論文を提出し、その内容が合格に達したと認定された学生に与えられます。

3. 既修得単位の認定等

本学部第3年次に編入学した者が、大学、短大、または高等専門学校等において修得した単位は、卒業に必要な単位の一部として認定します。ただし、すでに履修したカリキュラムと、編入学後の学科のカリキュラムとが大きく異なる場合は、十分な単位振替ができないことがあります。

4. 卒業に必要な単位の履修

卒業に必要な単位のうち、上記で認められなかった残りの単位については、各学科（各教育系）の定めるところによりそれぞれ履修しなければなりません。

名古屋大学情報学部概要

情報が社会に果たす役割は近年ますます大きくなっています。人工知能、ビッグデータ、IoT（モノのインターネット）など、情報技術は世界を革命的に変えつつあり、第4の産業革命とまで言われています。この情報技術の革命により、利便性と効率性は飛躍的に向上しつつあり、更には人類に従来に無いような新たな価値を創造することが可能となりました。しかし一方で、多様で膨大な情報をもとに構築された情報システムや社会制度は、多数の要素が複雑に絡み合っているために、新たな問題を引き起こすこともあり、それを単独の分野だけで解決することは困難となっています。そこで新たな学問が必要となってきました。これまで、学問は人間を取り巻く環境である、自然・人間・社会・技術を構成要素として発展してきましたが、新たに「情報」という学問分野が必要となってきたわけです。「情報学部」は、まさに今社会が求めている人材を育成します。そして2017年には、上で述べた情報学の理念の元にそれら全てを一体化した組織である、情報学部・大学院情報学研究科を創立しました。情報学部には、自然情報学科、人間・社会情報学科、コンピュータ科学科の3つの学科があります。

自然情報学科の紹介

自然情報学科は次に紹介する2つの教育系からなります。自然情報学科の学生はこの2つの教育系から自分が所属したいものを選びます。

ただし、系への所属は、原則として学生の希望を尊重しますが、希望者の偏りが大きい場合には調整を行うことがあります。

数理情報系

情報の生成・蓄積・伝達・制御、特に、通信や計算などの理解および応用には、さまざまな基礎的数学理論および関連する応用理論が必要です。

数理情報系では、基礎数学および情報科学・計算機科学をはじめとする広範な数理科学、それをサポートするコンピュータ利用技術、さらに自然現象・社会現象あるいは人工的・仮想的現象に対する数理モデルの構築と解析について教育と研究を行います。このことにより、「情報」を切り口としての数理科学の発展を図ります。数理情報系の構成メンバーは、上記の広範な分野をカバーする研究を行っており、関連する教育を担当します。

現在取り組んでいる主な研究内容は次のとおりです。

- ◎数学基礎論・数理論理学とその情報科学への応用
- ◎離散数学とその符号・暗号の理論などへの応用
- ◎アルゴリズム設計とその最適化などへの応用
- ◎量子情報理論・量子計算理論とその量子情報科学への応用

複雑システム系

ナノ物質の設計原理は？、生命における多様性や特異性の仕組みは？、社会におけるコミュニケーションの起源は？、流体の流れを支配する原理とは？…など、物質・生命・人間の広範な課題を研究する強力な現代的手法が登場しつつあります。それが複雑系の科学です。複雑系は分子・エージェントなど多数の要素によって構成されているシステムであり、要素間の相互作用によって、個々の構成要素単位からは予期できないような高次の秩序や機能をダイナミックに、自律的に生み出すシステムです。複雑系科学は、こうした秩序や機能の自己組織化過程を理解し、応用に結びつける科学ですが、その鍵は情報の考え方と方法にあります。すなわち、自己組織化過程とは情報が生み出され、蓄積され、変換される過程であり、情報の考え方と方法によって複雑系に対する普遍的な視座を得ることができます。本系では、人工生命・生体高分子・非平衡非線形現象における秩序パターンとカオス・量子素子・生態系の多様性の起源・柔軟な知能システムなど多岐にわたる具体例を通して、複雑系における自己組織化過程を究明します。また、理論・実験・計算の方法を総合して多様な対象の中に隠されている普遍的な情報処理原理を明らかにし、応用技術を発展させます。とりわけ、複雑系を解析するための革新的な計算手法に関する教育研究を行います。

人間・社会情報学科の紹介

人間・社会情報学科は次に紹介する2つの教育系からなります。人間・社会情報学科の学生はこの2つの教育系から自分が所属したいものを選びます。

ただし、系への所属は、原則として学生の希望を尊重しますが、希望者の偏りが大きい場合には調整を行うことがあります。

社会情報系

情報技術は既存の社会や制度を大きく変え、今も変えつつあります。必要なのは、科学技術の新たな産物を社会にうまく着地させ、その力を最大限に活用できるような技術と社会のよりよい関係をつくることです。社会情報系では、新たな科学的知見の獲得や技術的イノベーションとそれらの市民への提供、社会規範や制度の設計・構築、さらには芸術に見られる新たな価値創造とその社会への定着などに関して学びます。その基盤の上で、ICTの利活用による様々な規模におけるコミュニティの活性化と科学技術コミュニケーションの質的向上、さらにはソーシャル・メディアを含む情報の産出・流通・消費のグランドデザインを構築します。とりわけメディア環境のグローバル化、マス・メディアとソーシャル・メディアとの相違と相互影響という視点からの新たな人間観・社会観・価値観に基づくメディア・社会・文化の構築を進めます。これらの教育や社会連携を通して、高度な倫理・規範意識と専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した人間力を培い、技術と社会のよりよい関係の構築に貢献する人材を育成します。

心理・認知科学系

知・情・意などの人間の心の働きを、心理実験、社会調査、脳活動測定、コンピュータ・シミュレーション等の手法を用いて明らかにします。ハードウェアとしての「脳」、ソフトウェアとしての「認知情報処理」、インタフェースとしての「身体」、さらには人間が作り出す環境としての「社会」との結びつきなど、多様な観点から人間の心の働きを理解するとともに、人と人、人と人工物、人と環境の間の相互作用やコミュニケーションのメカニズム、プロセスを解明します。それらの人間の心に関する深い理解に基づいて、システム、環境、サービス、社会等の各領域に表出する諸問題を解決し、新たな価値を創造するためのコンセプト・方法、例えば、人間の特性に関する深い科学的理解に基づくVR（仮想現実感）システム、AR（複合現実感）システムやその他自動化システムの設計、学習支援の開発、デザインや情報伝達媒介の提案、幸福な高齢社会への提案、公正な社会の構築などを遂行できる人材を育成します。

コンピュータ科学科の紹介

コンピュータ科学科は次に紹介する2つの教育系からなります。コンピュータ科学科の学生はこの2つの教育系から自分が所属したいものを選びます。

ただし、系への所属は、原則として学生の希望を尊重しますが、希望者の偏りが大きい場合には調整を行うことがあります。

情報システム系

情報システム系では、社会の利便性、安全性、快適性の向上を実現する情報システムに関する知識と技術を学びます。情報システムを正しく効率的に設計・構築するために、コンピュータの動作原理となるアルゴリズムおよび計算モデル、ディペンダブルな情報システムを実現するためのシステムアーキテクチャとソフトウェアを構築する理論と技術、さらに、計算機ネットワークやスーパーコンピュータのような実際の情報システムについて学びます。

以下のような点に着目して情報システムに対する知識と技術を学びます。

・計算モデル

抽象的な計算モデルに基づいて行われる計算の効率や望ましい性質を導くための基本的な知識（計算アルゴリズム、書換え計算モデルなど）

・情報プラットフォーム

コンピュータを情報システムで利用するためのディペンダブルで効率的なシステムアーキテクチャと基盤ソフトウェア（マルチコアシステム、オペレーティング・システムなど）

・ソフトウェア

情報システムの振舞いを決めるソフトウェアの設計・構築・検証およびテストのための理論および技術（プログラミング言語の理論、ソフトウェアアーキテクチャ設計など）

・情報ネットワーク

情報システムを構成するために不可欠なコンピュータネットワークの構成と応用のための知識と技術（ネットワークアーキテクチャ，並列コンピュータシステムなど）

上記の知識と技術を学修することで，情報科学技術に対する深い知識と理解に基づいて先端的でディペンダブルな情報システムが構築できることをめざします。

知能システム系

知能システム系では，知能システムを創造するための，実世界のデータ化と解析，人間と情報システムとのインタフェースに関する知識と技術を学びます。情報システムを社会課題の解決に活用するために，実世界，すなわち自然，人工物，社会活動から情報をとりだし，人間にとって意味ある形式として情報を処理し，それを実世界に働きかけ，その結果をさらなる情報として取り出すための理論と技術を学びます。情報システムの基礎理論と知識の上に，知能システムの基盤となる理論と技術として，数値解析，各種信号処理，パターン認識を，知能処理のシステムを設計するための理論と技術として，最適化，人工知能，知能ロボットシステムを，さらに実世界に存在するビッグデータの利活用のための理論と技術としてデータベースを学びます。

以下のような点に着目して知能システムに関する理論と技術を学びます。

・信号・パターン処理

実世界のデータ化と解析のための理論とアルゴリズム（情報理論，確率・統計，数値解析，機械学習，信号処理，画像処理，自然言語処理など）

・知能システム

実世界に働きかけるシステム設計の技術と社会実装のための知識（ソフトウェア開発法，プログラミング，計算機アーキテクチャ，最適化，人工知能，知能ロボットシステムなど）

・データ工学

実世界に存在するビッグデータの利活用のための理論と技術（データマイニング，データベースなど）
上記の知識と技術を学修することで，情報科学技術に対する深い知識と理解に基づいて社会課題の解決に貢献する知能システムが構築できることをめざします。

名古屋大学東山地区配置図

